

頬横動脈の一例

梅村 恭伸, 加納 隆, 宇都野 創, 田所 治, 井上 勝博

松本歯科大学 口腔解剖学第一講座

A case report of A.transversa buccalis

YASUNOBU UMEMURA, TAKASHI KANO, HAJIME UTSUNO,
OSAMU TADOKORO and KATSUHIRO INOUE

Department of Oral Anatomy I, Matsumoto Dental University, School of Dentistry

Summary

In this study, we found an A. transversa buccalis in the cadaver of a 77-year-old Japanese male for anatomy practice at Matsumoto Dental University in 2005. The A.transversa buccalis originated from the external carotid artery at the level of the zygomatic arch. It ran to the anterior face and divided into the superior and inferior labial arteries. Very few reports on the A. transversa buccalis are found in the literature.

緒 言

ヒト顔面浅層の主な分布動脈である顔面動脈は外頸動脈より起こり, 下顎底を越え, 咬筋前縁を前上行し顔面表層に表れ, 口角に達し上唇, 下唇に分布する。さら鼻翼の外側を上行し眼角動脈となり鼻翼, 鼻背に枝を出し内眼角の近くで, 眼動脈の枝の鼻背動脈と交通するとされている。しかしながら顔面動脈には大きさおよび, 分布範囲の変異が知られており, 時にはオトガイ下で終わり, 口, 鼻まで分布しないことも知られている¹⁾。このような場合, 欠如した部位には近くから動脈枝が延長して, 顔面動脈の分布を代償するようになる。そのひとつとして A. transversa buccalis と呼ぶべき動脈が存在すると報告されている²⁾。しかしながら, その報告例は極めて少なく, 今回我々は, 2005年度松本歯科大学解剖学実習におい

て A. transversa buccalis (頬横動脈) の一例に遭遇したので報告する。

所 見

本例は, 肺炎で死亡した77歳の日本人男性に見出された。通常, 顔面動脈は舌動脈分岐部のすぐ上方で外頸動脈から起始し, 顎二腹筋後腹, 茎突舌骨筋の内側を前方へ走るが, 本例は顎二腹筋後腹, 茎突舌骨筋の外側を走行していた(図1, 2)。顎下部では顎下腺の内上方を弯曲し前走すべきものが, 顎下腺の外側表層を前走し, 顔面部へ上行せず, さらに前走し, 顎舌骨筋を貫き舌下部へ内上行する舌下動脈となり終わっていた。またオトガイ下動脈は通常どおり存在した。

顔面部に分布する動脈は2本あり, 1本は通常見られない動脈で外頸動脈が顎動脈, 浅側頭動脈に分岐する部位の直下で起こり, 耳下腺深部を前

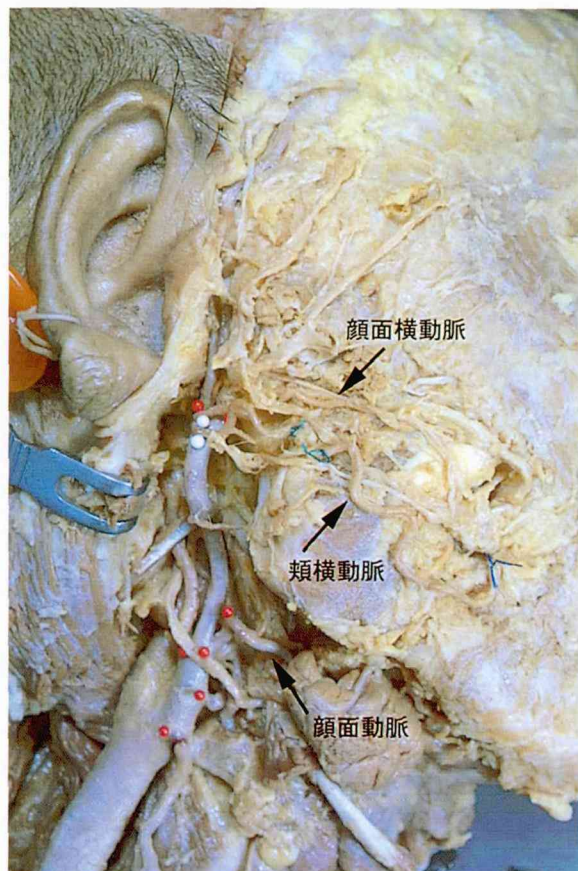


図1：剖出した顔面浅部
外頸動脈の枝の分岐部を赤印，頬横動脈の分岐部を白印で示す。

方へ弯曲しながら走り，咬筋の外側中央部を横切り，さらに口唇へ向かい上唇，下唇に分布していた。もう1本は顔面横動脈で，通常どおり浅側頭動脈起始部からおこり頬部に分布していた。また，顔面動脈の終枝となる眼窩動脈は，眼窩下動脈から分岐していた（図1，2）。

考 察

顔面動脈顔面部が欠如した場合，他の動脈が代償することは良く知られている。熊木³⁾は，浅側頭動脈または外頸動脈から起こり顔面外側部に分布する上，中，下の三条の動脈について報告している。またこれら三条の動脈のいずれもが顔面動脈を代償しうる可能性があることを示唆している。そのうち最上枝はいわゆる顔面横動脈で浅側頭動脈または外頸動脈から起始し，頬骨弓と耳下腺管の間を前走している。山本⁴⁾は顔面動脈を調査し，その分布状態を8つの型に区別した。その中でType 1は顔面動脈顔面部が完全に欠如し，顔面横動脈等によって代償される。また花井⁵⁾も

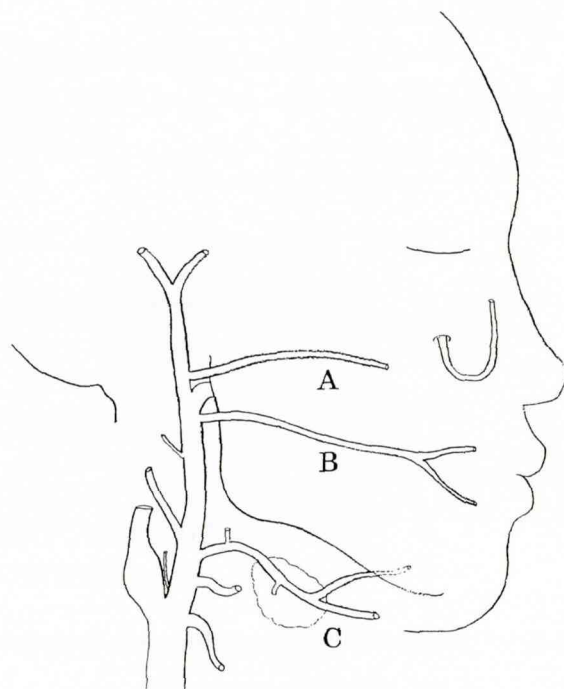


図2：顔面浅部の模式図を示す

- A：顔面横動脈 A, transversa faciei
B：頬横動脈 A, transversa buccalis
C：顔面動脈 A, facialis

山本同様に分布状態を8つの型に分類し，そのうちType 1は顔面動脈が両側性において全く欠如し，顔面横動脈によって代償されていた。その出現率は，山本の報告では，日本人男性80体150側中1例（0.6%）を認め，花井は成人実習体111体222側中2例（0.9%）であった。

顔面動脈顔面部が欠如した場合，その代償をするのは顔面横動脈と考えられている。通常，顔面横動脈は浅側頭動脈または外頸動脈から起始し耳下腺管の上を前走するが，本例では浅側頭動脈から起こる顔面横動脈は別に存在し，しかも，本例の動脈は耳下腺管の下を上唇および下唇に向かい前走していた。したがって本例の動脈は顔面横動脈とは考えられない。むしろ，熊木³⁾の報告にある三条の動脈の中央の枝に相当する動脈が分布範囲を広げたと考えられる。本例と同じような分布を示す動脈は金沢大学医学部の解剖学実習資料集²⁾⁶⁾に記載がみられ，A. transversa buccalis と呼ばれている。このA. transversa buccalisの分布状態は本例と極めて酷似しているが，浅側頭動脈から起始している点は一致しない。本例は外頸動脈から起始していたが，その走行と分布状態からA. transversa buccalisであると考えられる。

A. transversa buccalis について児玉⁷⁾は頬横動脈 A. transversa buccalis と仮称していることから、我々もそれにない頬横動脈と呼んだ。

比較解剖学的にはヤギ、ヒツジでは顔面動脈は欠如し、おもに顔面横動脈が上唇、下唇さらに眼角部まで分布しているが、カニクイザル、イヌ、カイウサギではヒトと同様に顔面動脈が発達していた⁸⁾。これらより顔面部の動脈として顔面動脈、顔面横動脈の2種が主動脈と考えられる。しかしながら、熊木³⁾が指摘しているように、頬横動脈も顔面部に分布する主動脈のひとつになりうる可能性が示唆される。

結 論

- 1) 2005年度松本歯科大学解剖学実習で肺炎で死亡した77歳の日本人男性に頬横動脈が見出された。
- 2) 本例は金沢大学医学部の解剖学実習資料集²⁾に報告されている A. transversa buccalis に分布が酷似していた。

- 3) 顎下部からの顔面動脈顔面部が欠如し、代償として頬横動脈が口唇まで分布していた。

文 献

- 1) Goss, C, M (1973) Gray's anatomy, 29 ed, 584. Lea & Febiger, Philadelphia.
- 2) 熊木克治 (1985) 解剖学実習資料集: 135-6.
- 3) 熊木幸子 (1972) 顔面横動脈について. 解剖誌 **47**(4): 312-3.
- 4) 山本 章 (1957) 顔面動脈, 浅側頭動脈の解剖学的研究 第1編. 歯科学報 **57**(4): 1-20.
- 5) 花井 汎, 松川正永, 谷口善之, 脇田敏明, 花井 隆, 長田淳一郎 (1975) ヒト顔面動脈とその上, 下唇動脈について. 城歯大紀要 **4**(1): 19-30.
- 6) 児玉公道 (1986) 解剖学実習第二資料集: 271
- 7) 児玉公道 (2005) 顔面動脈 A. facialis-特に高位分岐について-. 第7回人体解剖学実習セミナー・熊本 報告集: 199-200.
- 8) 入船忠史 (1987) ヤギの顔面横動脈について. 解剖誌 **62**: 334-42.